



スウェーデン・ストックホルム萬遊記



2010年9月20日から24日までスウェーデンの首都ストックホルムで行われた、第46回ヨーロッパ糖尿病学会(EASD)に行ってきました。開催都市となったストックホルムを訪れるのは15年振りのことでした。夜に到着したのですが、今年の暑かった日本とはまったく異なり、寒いストックホルムでした。しかし、朝起きてホテルの窓から外をみると、寒くて凍えそうな中を半袖でホテルの周りの公園や、シティホールの周りをジョギングしている方が大勢おり、寒さに慣れている国民だと思いました。このシティホールは、この度日本人2人が受賞したノーベル化学賞の授賞式を行うホールであり、記念晩餐会が行われる場所です。今回、そのシティホールの真正面のホテルに泊まりました。



今回の学会の話題は、やはりインクレチン関係の研究が多く発表されていました。また、GLP I の分泌機構などインクレチンの基礎的研究を続けてきた女性研究者に与えられた、ミンコフスキー賞の受賞講演も行われていました。

その他にも、多くのインクレチン療法関連の発表に関心が集まっていました。中でも、持効型インスリンとGLP I 受容体作動薬併用の臨床試験の報告では、その素晴らしい効果が発表されていました。また1型糖尿病患者に対する、シタグリプチンの効果の発表もありました。その他、インスリンポンプと持続血糖モニターを組み合わせ、血糖コントロールを厳密に行うデバイスの開発、これはアメリカ糖尿病学会でも展示場で発表されていましたが、今後の糖尿病治療の発展に期待できそうな報告でした。

またHbA1cを取り入れた診断基準は、今年の日本糖尿病学会でも新しく変わりましたが、世界的にHbA1cをより重視する診断の流れになっていると思いました。



学会中は天気が悪く、日中少し暖かくなりますが、朝晩は非常に寒いため、外に出る気は起きなく、学会場で発表を聞いておりました。昨年のウイーン大会、一昨年のローマ大会とは違い、会場にはいつもより多くの方々がいると思いました。また、観光と言っても特別なものはなく、ノーベル賞授賞式が行われるシティホールを中心としたヨーロッパ的な街並みが見られました。15年前に来た時と町並みは全く変わりなく、早々と日本に帰って来ました。

非常に寒い学会だったなぁという印象でした。





番外編

今回、ヨーロッパ糖尿病学会だけではなく、イタリアへも寄って来ました。イタリアは、フィレンツェ、ピエトロサンテに行って来ました。今年、萬田記念病院の前のできる公園に、安田侃の彫刻を寄付することになっております。安田侃はフィレンツェ郊外のピエトロサンテに仕事場があり、そこで世界的に有名なカッラーラの大理石で彫刻を製作しているために、仕事場を見て来ました。その前に、フィレンツェのアカデミアにある有名なミケランジェロのダビデ像(同じくカッラーラの大理石)を鑑賞し、またピッツェ宮殿の中のポーポリ公園内に置いてある安田侃の彫刻3点を見て来ました。12月には萬田記念病院の前の創成川通公園の3ブロックに、安田侃の彫刻が4点設置され、来年の5月にオープンすることになります。非常に待ち遠しく、楽しみにしております。







THE END



[BACK](#)